新生北谷高校



北谷高等学校

♪おもろに歌う「きたたん」の ちゃたんの名を 負う高校は♪・・・(校歌の出だし)

今から500年以上前、琉球王国第4代尚清王代から約100年かけて編集された「おもろそうし」に出てくる"きたたん"(北谷)の地に学舎が建つ。



本校は、昭和50年に「県立高等学校編成整備計画」に基づき、当時の北谷村・沖縄市等、地域の大きな関心と期待を担い、全日制課程・普通科の高校として創設された。北谷町の丘陵地に位置し、東シナ海と若者の街ハンビータウンを眺望する景勝の地にある。

校章「円は世界を表し、左右の4つの四角は人間の個々を表す。個々の心身、知性を磨き秩序と和を守りつつ世界へ伸びていく」の意であり、校訓「自主・創造・敬愛」の下、教育目標を設定し、「生徒一人ひとりの個性の伸長に努めるとともに自主性、創造性、敬愛の精神を培い、国際化・情報化社会においてたくましく生きる力を育む」教育を推進し、平成25年3月までに11678名の卒業生を送り出し、県内外の各分野で活躍する有能な人材を輩出してきた。平成20年には校舎を全面改築し、新生北谷高校として新たな挑戦を始めており、2年後には創立40周年を迎える。

「志ある者には最大限のチャンスを与え、そして 最大限の支援を行う」ことを教育の支柱とし、「人 は変わりうる存在である」ことを全職員が共有し、 有為な人材育成に邁進している。

本校は開校当初から部活動や生徒会活動等生徒の 自主的活動が盛んであった。特に女子の活躍が目 立った。創立3年目にはソフトボールとバスケット ボールが九州大会と全国総体に派遣されている。そ の後10年間で、女子バスケットボール部が九州及 び全国総体に6回出場している。

平成2年からの10年間は、北谷高校部活史上最

強の時代を築いた。平成2年度県高校総体で男子バスケット部が初優勝すると、その後総体3連覇を果たした。平成7年、8年、10年と優勝回数を重ね、九州・全国大会でも強豪校の一角を占めるまでになった。平成2年の新人大会においては、女子ソフトボール、男子バスケットボール、卓球ダブルスとテニス男子シングルスで優勝した。平成7年になると、新体操女子と剣道女子が頭角を現した。平成7年には新体操と剣道が共に団体初優勝を飾り強豪校に躍り出た。両部ともその後県高校総体3連覇を果たした。平成13年には水泳個人200m・400mメドレーとウエイトリフティング個人選手権で優勝を飾った。

平成14年にはバドミントンが台頭した。シングルスで県総体優勝を果たすと16年にかけて新人大会を含め4連覇した。平成16年には団体でも優勝。

平成15年には新たにボウリング競技で活躍が目立った。第1回全沖縄高校対抗選手権大会の女子個人で優勝。平成16年からは団体で3連覇を果たした。野球は甲子園出場を目標に日々の生活を律し厳しい練習に打ち込んでいる。これまでにプロ野球選手も輩出している野球部が、近い将来きっと夢を実現することを確信している。平成14年第52回秋季大会のベスト4が最高の成績である。

最後に本校部活動の特色ある取り組みを紹介する。平成21年に第1回北谷高校部活動生合同合宿を2泊3日の日程で行った。生徒230名、保護者30名、職員15名であった。部活動生の連帯感を強め、部活動の意義や心構え等を外部から講師を招いての講義等で培っている。自炊を含め生活全般を生徒自ら考え実践することによって主体的行動が取れるようになった。"部活動の活性化は学校の活性化"をモットーに最大限の支援をおこないたい。





本校運動部による栄光のあしあと

知念高等学校

昭和20年に開校し、今年で68年目を迎えます。 校訓「和衷協同」を根幹として、「文武両道」をモットーに勉学にもスポーツにも力を入れ、心身ともに 健全な生徒の育成を目指しています。部活動が盛ん で体育系文化系を合わせると8割の生徒が部に所属 し、それぞれ優秀な成績を上げています。

なかでも、なぎなた、弓道、陸上、卓球、ソフトボール、バドミントン、サッカー、ヨット、水泳、ボウリングに関しては県制覇という素晴らしい活躍がありました。

また、平成22年の全国高校総体(美ら島沖縄総体)でのなぎなた部による団体、演技優勝の2冠達成、平成24年には、弓道部による県勢初の全国高校総体女子団体優勝などがあり、地域や同窓生ともに喜び、学校全体が活気にあふれています。

今回は、字数に制限があるため団体競技を中心に 栄光のあしあとを紹介したいと思います。

なぎなた

平成16年 県高校総体 演技優勝 全国高校総体 演技優勝 新人大会 団体、個人優勝

17年 新人大会 団体、演技、個人優勝

18年 県高校総体 団体、演技、個人優勝 新人大会 団体、演技、個人優勝

19年 県高校総体 団体、演技、個人優勝 新人大会 個人、演技優勝

21年 県高校総体 団体、個人、演技優勝 全九州体育大会 団体優勝 全国高校総体 演技優勝 新人大会 団体、演技、個人優勝

22年 県高校総体 団体、演技優勝 全九州体育大会 団体、個人優勝 美ら島総体 団体、演技優勝 新人大会 団体、演技、個人優勝

23年 県高校総体 団体、演技、個人優勝 新人大会 団体、演技優勝

24年 県高校総体 演技優勝 新人大会 個人、演技優勝

25年 県高校総体 団体、演技、個人優勝

バドミントン

平成16年 県高校総体 男子シングルス優勝 17年 県高校総体 男子シングルス優勝 弓 道

平成21年 新人大会 男子個人優勝 新人大会 女子団体優勝

22年 県高校総体 女子団体優勝

24年 県高校総体 女子団体優勝 全国高校総体 女子団体優勝

25年 県高校総体 女子団体、個人優勝

卓球

平成16年 県高校総体 女子シングルス優勝 新人大会 男子ダブルス優勝 女子シングルス優勝

17年 県高校総体 女子シングルス、ダブルス 優勝

20年 新人大会 男子シングルス、ダブルス優勝

21年 県高校総体 男子団体、ダブルス、シングルス優勝

22年 県高校総体 男子団体優勝

23年 新人大会 男子シングルス優勝

24年 県高校総体 男子シングルス優勝

ソフトボール (女子)

平成16年 春季大会優勝 国体県予選優勝 新人大会優勝

17年 春季大会優勝 新人大会優勝

18年 県高校総体優勝 新人大会優勝 19年 春季大会優勝 県高校総体優勝 新人大会優勝

22年 春季大会優勝

サッカー

平成20年 県高校総体優勝

ヨット

平成21年 新人大会 FJ級優勝

22年 県高校総体FJ級優勝 新人大会FJ級優勝

23年 県高校総体 FJ級優勝 新人大会 FJ級優勝、SR級優勝

24年 県高校総体 FJ級優勝、SR級優勝 新人大会 FJ級優勝、SR級優勝 女子FJ級優勝

25年 県高校総体 FJ級優勝、SR級優勝 女子FJ級優勝



学校紹介

中部商業高等学校

沖縄県高等学校体育連盟創立60周年を迎えるに 当たり心からお祝い申し上げます。

さて、本校は来年9月に創立50周年を迎える運びとなりました。昭和40年4月に開校式と入学式(400名)を挙行しております。本校は美しい緑と花に囲まれて野鳥のさえずる学校で、グラウンド周辺の樹木、防球ネット、スタンドも広々とよく整備されていて、校舎よりグラウンドが下がっているのも気持ちが良く、校舎もA棟、B棟、C棟、D棟と整然と並んでいます。

このようなすばらしい環境で職員、生徒が一体となって学業や部活動に励んでおります。またPTA活動も盛んで、去る7月には生徒会、部活動生を中心とした朝の挨拶運動にPTAも参加していただきました。また毎年一学期の中間テスト終了後に「PTAによる生徒激励」を開催し全校生徒、約700名分の沖縄そばを振る舞っていただいています。過去にはPTA活動が優秀であるとのことで県PTA連合会から団体の部で全国表彰の推薦を受け、全国PTA大会で優良団体として表彰を受けた実績もあります。

昨今の国際化、情報化等の社会の変化に対応するため、平成21年度から総合ビジネス科3クラス、情報ビジネス科2クラス、国際ビジネス科1クラス、生涯スポーツ科1クラス、と学科改編を行いました。自主・礼節・協調を校訓に、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をめざして、地域社会の期待に応えられるような教育内容の充実を図っています。

校章である商業の神ヘルメス(マーキュリー)の 杖は、二匹の蛇がおとなしくまといついた羽根のあ る使節杖です。ヘルメスはこの杖を肩に各地で商業、 貿易および文書報道を奨励発展させた神様であるこ とから本校の校章に採用されました。

毎年開催される沖縄県高等学校商業実務競技大会では、珠算・簿記・ワープロ・情報処理・電卓の部で多くの生徒が活躍しています。

本校は部活動も盛んであり生徒、職員も活気にあ ふれています。県高校総体、新人大会等では陸上部 を筆頭に多くの部活動が素晴らしい成績をおさめて います。最近では九州陸上選手権大会において女子 100mリレーが7位入賞を果たしました。また沖縄 県総合体育大会のボクシング競技のライト級におい て優勝を飾りました。さらに昨年の10月に卒業生 が日本ハムファイターズから指名されるなど野球部 の活動も盛んです。

文化面では全沖縄高等学校英語スキットコンテスト、国際英語弁論大会で県優勝を飾り、九州大会に出場し最優秀賞を獲得しました。またビジネス文書検定1級を取得する生徒もいます。

本校は創立当初から県高体連に加盟し、各高体連 競技に参加させていただきまして、心から感謝申し 上げ、高体連がますます発展しますことを祈念いた します。







不 撓 不 屈

中部農林高等学校

本校は、昭和21年、現在のうるま市字田場に沖 縄文教学校農学部として創設され、昭和27年、琉 球政府立中部農林高等学校と改称し、現在に至って いる。当初は自然豊かで農村らしい静かな景観が周 りに見られたが、安慶名地区土地区画整理事業によ り再開発が進められており、文化的な施設の建造と ともに都会的な商業地区に変貌しつつある。平成 12年に学科改編が行われ、「新生中部農林高校」と 銘打って熱帯資源科、福祉科などの新設学科を設置 した他、他学科においても名称変更、コース内容の 見直しなどが行なわれた。その結果、入学志願者数 が増加し、近年は進路決定率が高く、大学、専門学 校へ進学する割合が高くなっている。現在は熱帯資 源科、園芸科学科、食品科学科、造園科、福祉科の 5 学科と定時制課程農業科並びに高等支援学校分教 室が置かれており、生徒は、思いやりのある優しい 生徒が多く、相互理解のもと、それぞれの目標を持っ て勉学、スポーツ活動等に取り組んでいる。現在、 全日制の在籍は562名、その内女子生徒は377名で 7割近くを女子生徒が占めるようになってきた。

そのため、部活動に参加する生徒も女子が多い。 今年4月には女子ラグビーチームが県内で初めて発 足したことが話題となり、マスコミに大きく取り上 げられた。また、女子ソフトボール部の活動も6年 目を迎え、徐々に力をつけてきた。何より特筆した いのが、彼女らの練習に望む姿勢である。グラウン ドの整備、清掃活動に努め、挨拶がさわやかである。 安全面への配慮とともに、精神面の強化につながり、 強いチームとしての素養ができあがりつつある。課 題は指導者が転勤になった際の後継者問題である。 これはすべての部が抱えている問題であり、指導者 養成、条件整備をすすめていくことが急がれる。

実績の面で中部農林高校を元気づけているのは相撲部の活躍である。同部は昭和62年に創設された。設立当初から平成23年まで指導してきたのが木崎智久監督で、途中転勤による3年間を除いて23年間、本校の相撲部とともに歩んでこられた。この間、多くのアスリート、そして指導者を育て現在に至っている。

過去10年では、平成17年度の県総合体育大会で 団体10連覇を達成したほか、18年、19年の準優勝 を経て、翌20年から6連覇中である。九州大会、 全国大会の結果を見ると、平成17年の第1回全九 州高等学校相撲新人選手権大会で団体初制覇を果た したほか、平成22年美ら島沖縄総体では準優勝と いう快挙を果たした。

個人戦では平成22年、全日本ジュニア体重別選 手権80キロ未満級で和宇慶一騎君が優勝、県総合 体育大会、県高等学校新人体育大会でも毎年、各 階級を総なめにしてきた。今年度は九州高校総体 80kg未満級で幸地佑大君が優勝、九州チャンピオ ンとなった。

これまで多くのアスリートを育ててきたが、その中から、ここ10年で5名が角界入りを果たしている。平成18年には豊見山良致君が入間川部屋に入門、平成22年に基王代仁君が九重部屋へ、翌23年、24年と福里勇弥君、宮城圭祐君、勝山光王君が同じ九重部屋へ入門していった。今年3月場所で、千代皇こと基王代仁君が勝ち越し、十両昇進が決まり、中農相撲部念願の関取が誕生した。4月には、千代皇関自ら九重部屋親方(元横綱千代の富士)と一緒に本校を訪ね、全校生徒の前で十両昇進の報告をし、また全校生徒へ「自分の好きな道を見つけて一生懸命にがんばってほしい」と熱い思いを届けてもらった。他方、宮城圭祐君は在学中、白血病を患い、関取の道を断念したが、呼び出し海人として好きな相撲と関わって活躍している。

その他の部活の活躍では、平成18年から19年にヨット部が、個人戦で1位2位という記録がある。 柔道でも平成19年から22年まで大会に参加しており、新人大会女子団体で3位となっている。また、昨年は自転車部も創設され、高校総合体育大会女子スプリント500mタイムトライアルで本校生徒が1位、2位、3位を独占した。他にスポーツ系の部活はバレー部、バスケット部、サッカー部、バドミントン部、陸上部、野球部があるが、1回戦突破が現在の目標となっている状況のため、練習の効率化とともに体力面での強化を図り、最後まで戦える体を作っていきたい。

部活に関わる生徒が常に座右の銘としている言葉は「不撓不屈」である。本校の校訓であり、校歌の三番にも謳われている。厳しい自然環境・自然条件下で、人間が自然に働きかけて生物を培養する生命産業が農業である。自然の摂理に順い、忍耐強く、諦めることのない自覚心(精神)を育てようという思いが不撓不屈に込められている。この精神を全校生徒が共有し、苦難に遭遇したときに挫折せず、志を変えずに立ち向かう勇気が、部活動、試合に望む生徒の心を支えている。



学校紹介と運動部沿革

泊高等学校

本校の沿革は昭和43年4月1日琉球政府立小禄 高等学校通信制課程設置に始まる。昭和52年には 定時制課程が設置され、小禄高等学校から分離独立、 現在の場所に泊高等学校が誕生した。平成2年には 県内で唯一となる定時制課程午前部が開設。現在は 単位制、通信制課程、定時制課程の二課程、3部か ら構成されている。育てたい生徒像としては、①社 会に貢献し、個性豊かで自立できる生徒。②和をもっ て互いに協力し、いたわり合うことのできる思いや りのある生徒。③自分自身変わろうとする強い意欲 と実践力を持ち、成長していく粘り強い生徒。校訓 を「自覚 敬愛 実践」精神の寛容とし、心豊かな 生徒の育成を目指している。生徒数は通信制668名、 定時制課程887名、計1555名(平成25年度当初)。 卒業生は平成24年度をもって総計1万名を越え、各 領域、各層で活躍。幅広い年齢層そして有職者やア ルバイト従事者が混在する状況の中、限られた時間、 場所を最大限活用し運動部活動に取り組んでいる。 ここで沖縄県高等学校体育連盟60周年の節目に際 し、過去10年間の部活動について触れてみたい。

〔通信制課程〕

これまで県大会においては、各競技種目活躍している。平成22年度県高等学校定通制夏季体育大会、卓球男子個人で、砂辺晋吾君が3連覇、県高等学校定通制対抗陸上競技大会男子3000m障害で、大田判君が3連覇を達成している。バドミントン男女、卓球男女の活躍が顕著、平成23年度夏季体育大会で卓球男子団体2連覇、秋季体育大会でバドミントン女子団体2連覇、平成24年度は、夏季体育大会において、卓球女子団体2連覇、個人で伊元茉莉奈さんが2連覇、バドミントン男子団体・女子団体がそれぞれ2連覇、個人でも大城道仁君がそれぞれ2連覇を達成している。平成25年度は、夏季体育大会で、卓球女子団体が3連覇、バドミントン女子団体3連覇、同種目個人で、大城道仁君が3連覇を達成した。

〔定時制課程午前部〕

平成16年度に軟式野球が県予選を勝ち抜き、全国高等学校定通制夏季体育大会で準々決勝まで駒を進めた。平成18年度には県高等学校定通制夏季体育大会において、女子バスケットボール、男子バドミントンが優勝(19年度連覇)し全国の檜舞台

へ。平成21年度は女子バドミントンが22年度には 男子バドミントンが県高等学校定通制夏季体育大会 優勝。また同大会では女子バスケットボールが平成 23年度、24年度連続優勝。平成24年度県高等学校 定通制夏季体育大会ではサッカー部が創部1年目で 優勝した。顕著な実績としては玉城孝朗君が走り高 跳びにおいて21年度から県大会3連覇。特に22年 度には194cmのすばらしい記録で全国大会の頂点に 立った。平成24年度の全国高等学校定通制夏季体 育大会では波平拓也君が柔道重量級3位に入る健 闘。陸上競技は県内大会で多種目上位成績を残して いるが、特に平成22年度から25年度まで100メートル4連覇を果たした並里健君の実績は特筆に値す る。

〔定時制課程夜間部〕

平成16年度、県高等学校定通制秋季体育大会に おいて軟式野球、男子バスケットが優勝した。平成 17年度、県高等学校定通制夏季体育大会男子バス ケットボール、柔道個人中量級で宮里博文君が優勝。 県高等学校定通制秋季体育大会においては柔道個 人中量級で與那覇太嘉君が優勝した。平成18年度、 県高等学校定通制夏季体育大会柔道個人中量級で宮 里博文君が優勝、女子の宮川由巳子さんが認定優勝 した。平成19年度、県高等学校定通制夏季体育大 会において女子バレーボールが優勝した。また、柔 道個人75キロ超級で島袋俊幸君、無差別級で山城 裕子さんが優勝した。平成20年度、夏季大会で女 子バレーボール、卓球男子が女子バレーボール、卓 球男子が優勝した。また県高等学校定通制陸上競技 大会で男女総合優勝(女子2連覇)を果たした。平 成21年度、夏季大会でバレーボールがアベック優 勝、陸上競技大会で女子が総合3連覇。平成22年度、 夏季大会でバレーボールがアベック優勝 (男子2連 覇 女子3連覇)陸上競技大会で女子が総合優勝し、 4連覇を達成。平成23年度、夏季大会で男子バレー ボール部が3連覇。平成24年度、夏季大会で干場 文也君が卓球男子シングルスで優勝した。陸上競技 大会で女子が総合優勝、女子100メートルで瑞慶覧 早姫さんが4連覇の偉業を達成した。平成25年度 は夏季大会で軟式野球、卓球男子団体、女子バスケッ トが優勝した。



全国制覇に挑む

豊見城高等学校

野鳥の飛来地としてラムサール条約に登録された 漫湖に注ぎ込む国場川と饒波川の川口に挟まれた場 所に本校は位置している。この地は近くに豊見城城 跡や真玉橋など史跡があり、交通の便に恵まれた所 である。

本校は昭和41年4月に開校した。以来輝かしい伝 統を築きながら今日に至っている。

平成16年~25年にかけては、ウエイトリフティ ング部の活躍がめざましい。平成16年8月の全国 高等学校総合体育大会では85kg級大城裕之が優勝 している。平成17年3月の全国高等学校選抜大会 では、56kg級仲本雄太、女子53kg級金城尚乃が優勝、 7月の第7回高等学校女子選手権大会では、58kg 級金城尚乃、63kg級盛島加奈子が優勝している。 平成18年7月の全国高等学校女子選手権大会で75 kg超級比嘉真理子が優勝している。平成19年3月 の全国高等学校選抜大会では、男子62kg級金城聖 丸、女子75kg級仲村理奈が優勝、7月の全国高等 学校女子選手権大会で48kg級真喜志沙織、75kg級 仲村理奈が優勝している。平成20年3月の第23回 全国高等学校選抜大会では、男子56kg級糸数陽一、 62kg級金城誠丸、69kg級金城聖丸、女子63kg級谷 山祐里奈、75kg級仲村理奈の5名が優勝、7月の 第10回全国高等学校女子選手権大会で仲村理奈が 優勝している。同年8月には、全国高等学校総合体 育大会で、56kg級糸数陽一、62kg級金城誠丸、69 kg級金城聖丸が優勝し、団体でも5年ぶり3度目 の優勝を成し遂げ、10月の国民体育大会において も優勝し、少年の部団体優勝に貢献、3名は選抜 大会、高校総体、国体と3連覇している。さらに、 56kg級糸数陽一は、同年12月のアジアユース選手 権大会に日本代表として優勝している。平成21年 3月の全国高等学校選抜大会では、62kg級糸数陽 一、85kg級仲里優人が優勝し、6月の2009世界ジュ ニア選手権大会に56kg級糸数陽一が日本代表とし て銅メダルを獲得している。同年7月の全国高等学 校女子選手権大会では、63kg級神谷歩が優勝、8 月の全国高等学校総合体育大会、9月の国民体育大 会において、62kg級の糸数陽一が優勝し、選抜大会、 高校総体、国体と2年連続3連覇している。平成 22年7月の第12回全国高等学校女子選手権大会で は、75kg級七戸美空が優勝するなど、学校対抗戦 (団体)で県勢初の優勝を成し遂げ、11月の第2回 レディースカップでは、48kg級糸数加奈子、75kg

級七戸美空が優勝するなど、団体でも優勝している。 平成23年7月の第13回全国高等学校女子選手権大 会では、75kg超級金城絵里香が優勝し、11月の第 3回レディースカップでは、69kg級阿部美月、75 kg超級金城絵里香が優勝し、団体でも2連覇してい る。平成24年7月の第14回全国高等学校女子選手 権大会では、75kg級岸本有未が優勝、8月の全国 高等学校総合体育大会では、105kg超級知念光亮が 日本高校新記録で優勝、11月の第4回レディース カップでは、69kg級阿部美月が優勝している。平 成25年3月の第33回全日本ジュニア選手権大会で、 女子69kg級阿部美月、男子105kg超級知念光亮が優 勝、第28回全国高等学校選抜大会では、53kg級知 念勇斗、77kg級仲西弘一、105kg超級知念光亮(日 本高校新記録)が優勝している。同年8月の全国高 等学校総合体育大会では、53kg級知念勇斗、77kg 級仲西弘一が優勝するなど、学校対抗戦(団体)で 5年ぶり4度目の全国制覇を成し遂げた。現在、さ らなる連覇をめざして日々取り組んでいる。

弓道部では、平成23年11月の九州高等学校体育 大会で、金城未来が準優勝し、平成24年8月の全 国高等学校総合体育大会でも準優勝している。同年 11月の第20回九州高等学校新人選手権大会で、個 人嘉数弦太が5位入賞、平成25年7月の全九州高 等学校体育大会で、比嘉スター星乃が6位に入賞し ている。

剣道部では、平成16年7月の全九州高等学校体育大会で男子団体がベスト8、女子個人でも島尻奈美がベスト8入り、8月の全国高等学校総合体育大会では、男子団体がベスト16入りしている。平成18年8月の全国高等学校総合体育大会では、女子個人本部世梨華が3位に入賞し、平成19年8月の全国高等学校総合体育大会では、女子団体でベスト8入りしている。

ボクシング部では、平成20年6月の九州高等学校体育大会で、ライトフライ級の稲福政人が準優勝している。また平成22年7月には、「美ら島沖縄総体2010」のボクシング競技が本校体育館で開催され、多くの生徒がボラティアで大会を支え、成功に導いてくれた。

他の種目も県高校総体において数々の優勝を勝ち 取り、平成23年県高校総体総合4位の成績を上げ た。



本校の概要と部活に係る沿革について

豊見城南高等学校

I. 校章について

全体の形からは、ダイナミックな(動的表現)で 若人そのものを象徴している。

円・・・・・・調和のとれた人格

三本の波・・・・知性・美しい心・健康な体がたえず脈動する高校

翼・・・・・発展、そして輝かしい栄冠として Victoryの頭文字

Ⅱ. 校訓

勤勉・・・青雲の志を持ち、自ら学び、自ら考える 主体的な生徒

強調・・・豊かな情操と奉仕の精神に富み、動労を 重んじ平和を愛する心身共に健全な生徒

創造・・・社会に貢献できる創造性豊かな生徒

Ⅲ. 学校概要

本校は、昭和56年4月の開校以来33年目に際し、これまで8416名の卒業生を世に送り出してきた。学校は、平成14年4月から市制を発足した豊見城市の翁長にあり、南に糸満市、西に瀬長島、慶良間諸島さらに東シナ海が眺められ、学園にふさわしい自然環境に恵まれた場所にある。また、豊見城市役所の移転や埋め立てによって新たに豊崎地区が誕生し、商業・経済など豊見城市の中心地になりつつある。

本校は、県立学校の中でも有数の広大な敷地を有し、堂々たる校舎、セミナーハウス、部室棟、駐輸場、アーチェリー練習場、ジョギングコース等が設置され、緑豊かな教育環境の整った学校となっている。

IV. 高体連主催等大会結果の沿革及び現状

以前、豊見城南高校の女子マラソン部は無敵を 誇っていた。その後、女子バレーボールや野球部の 甲子園出場で名を馳せた。

近年は、アーチェリー部の活躍が目立っている。 ここでは、平成16年度以降でめざましい結果を残 した部活及び生徒の現状について記す。

◎平成16年度~

• 新人駅伝大会優勝(1時間16分23秒大会新記録)

◎平成21年度

- 高校総体カヌー女子1位
- •新人体育大会カヌー競技女子1位

•新人体育大会ウエイトリフティング1位

◎平成22年度

- 全国高等学校総合体育大会 「沖縄総体2010」バドミントン競技会場」
 - ・カヌー競技女子1 位
 - ・ウエイトリフティング1位
 - ・アーチェリー競技女子団体優勝
 - ・アーチェリー競技女子個人1位
- 全国高校生トライアスロン大会 (東京都) 優勝
- 新人体育大会
 - ・アーチェリー競技男子団体優勝
 - ・アーチェリー競技個人男子優勝

◎平成23年度

- 総合体育大会
 - ・アーチェリー競技男子個人優勝
- 新人体育大会アーチェリー競技
 - ・男子個人優勝

◎平成24年度

- 総合体育大会
 - ・アーチェリー競技男女団体優勝
 - ・アーチェリー競技男子個人優勝
- 新人大会アーチェリー競技
 - 男女団体及び個人優勝

◎平成25年度

- 総合体育大会アーチェリー競技
 - ・男子団体及び個人優勝

多くの生徒は素直で明るくあいさつをよくしてくれる一方、「確かな学力」や「基本的生活習慣」の未定着ゆえの取り組みが急務である。目下、本校は県指定学力向上対策研究校として学対に取り組んでおり、基礎・基本的な学力や能力の定着を図り、それを活用した思考力・判断力・表現力等の育成による「確かな学力」の定着をめざしている。また、「基本的生活習慣」の定着については部活動の活性化が寄与するとの考えから、現在60%強の部活加入率のさらなる向上をめざしているところである。